

第一類永久保存

斜里村

斜里郡

艾君瑁村

止別村

朱田村

遠音別村

村誌

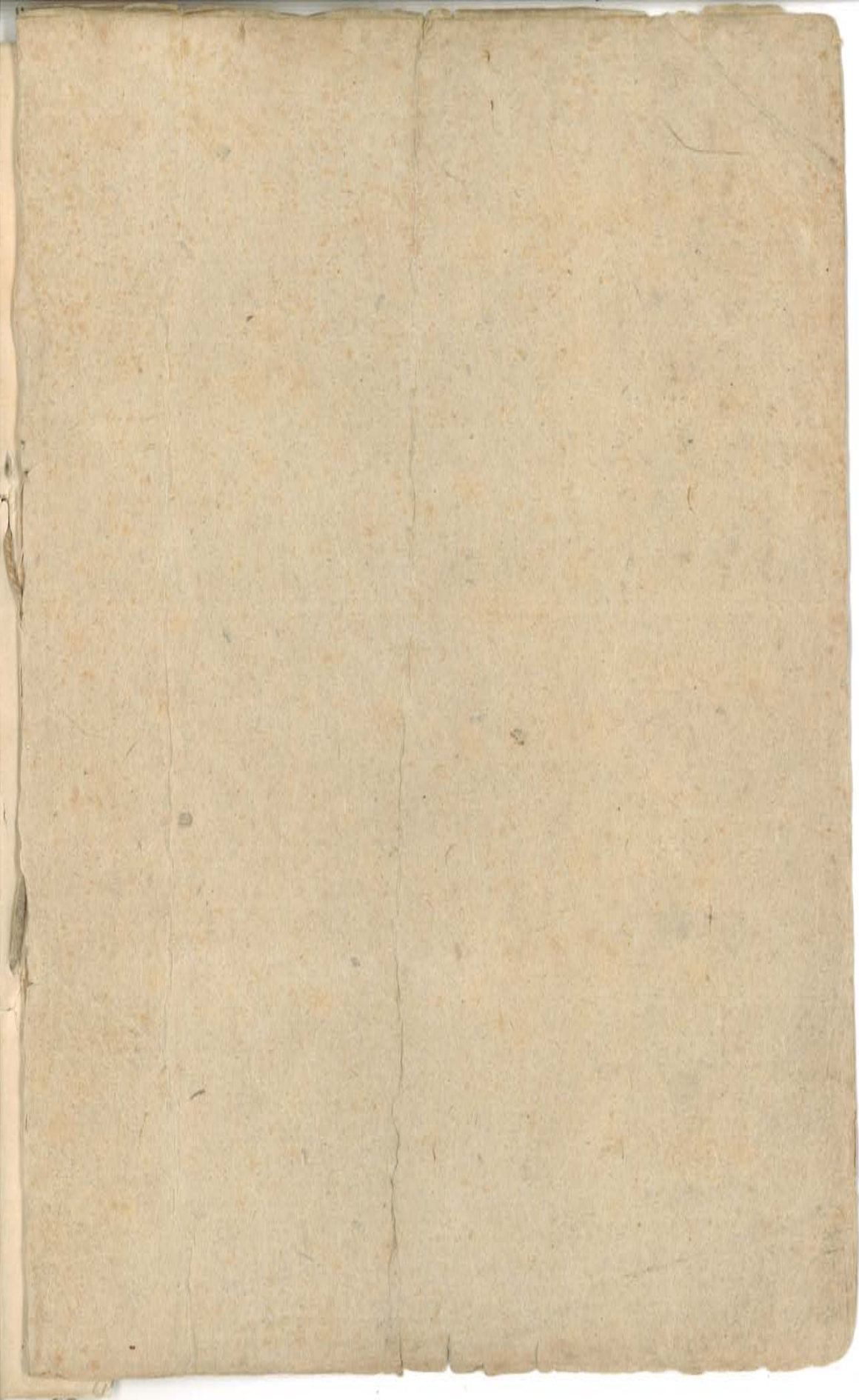
172

庶務

斜里外四ヶ村戸長役場

高紙号抄出枚

五七



沿革

明治二十七年以前ハ記録、徴スヘキモノナク其詳細ヲ知ル  
 事能ハズレトモ口碑其他ニ依ル時ハ當村ハ開始具古  
 今ケリ凡ソ百年以前ケラント云フ松前藩時代ハ運  
 上屋、支配、爲シ幕府、直轄ト云ヤ會津藩具  
 守備、任セル等種々番遷リ経テ附極使、管轄  
 取スルニ至リ明治十一年十月二十五日分二十七区二三四小区  
 区務所ヲ置カレ總代人川端又三良、区務取極リ  
 兼勤ス示后長、派ニ當ル多川端又三前  
 田友弘和賀魚取永田高致中山龍重後藤弥  
 次中福原才中ヲ経テ現任兼重浦次中ニ至ル  
 松前藩統轄時代ヲ維新ニ至ル時居民ハ概シ  
 土人ニシテ海岸ニ住シ漁撈ヲ業トシ僅少内地人漁

明治二十七年以前ハ記録、徴スヘキモノナク其詳細ヲ知ル

期ニ云上ハ来リ土人。使役シテ漁業ヲ営ミ漁期去ルト  
 共ニ番人ヨリ遺シテ去ル惟新前後ニ於テ漁業家トシテ資産  
 声望最モ高カリシハ藤野四郎兵衛ニシテ當時ハ蓋村ノ居民殆  
 ト主従ノ關係ヲ有シテト云フ今尚多老ノ漁場漁合家屋  
 倉庫等ヲ有シ且下田ニ立テ生業ヲ営ムヲチナカラス開拓  
 使時代ヨリ拓地殖民ヲ奨励シ農事教師ヲ遣ヘ四セテ耕  
 作法ヲ指導セル等屋カ至ラシト云ハ拓地拓北ニシテ  
 交通甚敷不便ナレシ以テ若シキ効ヲ養セリトカ以テ  
 二十二年(上)新屋原野九百六十六坪、鮫島別原野千百  
 七十二坪、明正二十二年、上科屋原野千六百坪、松島野  
 止別原野千五百八拾五坪、ヲ開放セテ拓地殖民  
 次第ヲ遂テテ進シ以テ現今ノ盛況ヲ呈スルニ至レリ

境界

東北に根室國西に洞主郡蘆琴村に界し南に釧路國  
に隣り北にオホソウウ海に面せり東西二十六里南北十一  
里余の面積約七十餘方里

地勢

東南一帯山岳重疊樹木繁茂にして別川に源ヲ銅陸  
國境に設し止別原野ヲ要ス流レ海に注グ斜を川に源ヲ根  
室國境に設シ數多ク細流ヲ併セ上斜原原野斜を  
原野アツカシベツ原野ヲ貫流シ海に注グ斜を川止別  
川流域一帯に廣漠々平原ノ沃野遠ク互リテ農  
耕に通シ東南に進ミ陸に漸ク丘陵起伏シ銅路  
根室國境斜を山嶽ト考ムチフトマリテ知床岬に  
至ル間ニ土地疏確ニシテ耕作ニ適ス根室國境に  
遠音嶽硫黃山等峙ク硫黃山ハ硫黃の産

新元元月管内月行  
之管々 函籙ノ皆月善六 探堀しめん也 今ヤ其業  
ヲ廢セリ 函籙湖ハ 蒼瑠村ノ西北 調志郡ノ薄琴村ニ  
跨リ 瀕海地ハ 砂礫ニシテ 耕作ニ適セザル也 鱧  
鱧鱧ノ 漁場多シ

斜里村朱界村界ハ假定縣道ノ境界トス

細走支廳ノ電報ニ通達 細走電行自發第五二號

但し昭和十二年八月二十日 省印收受件者 第五二九四號受

四十二年度第一類 卷目 貳拾五号 卷看

新元文鳳台四月十五日

心當一區鐘之皆月善六探塔之也今其業  
... 廣平府... 廣環村... 西北鎮... 滎琴村  
... 賴海地... 砂礫... 新件... 通... 鐘  
... 鐘... 鐘...

... 廣平府... 廣環村... 西北鎮... 滎琴村

... 鐘... 鐘... 鐘... 鐘... 鐘... 鐘... 鐘... 鐘... 鐘... 鐘...  
... 鐘... 鐘... 鐘... 鐘... 鐘... 鐘... 鐘... 鐘... 鐘... 鐘...

... 鐘... 鐘... 鐘... 鐘... 鐘... 鐘... 鐘... 鐘... 鐘... 鐘...



戸口 明治三十八年十二月三十一日現在

現在戸数二百九十三戸

内 本籍百四十一戸  
寄留百五十二戸

但し内旧主人本籍五十三戸寄留七

現在人口八百三十三人

内 本籍 男二百三十四人  
女二百四十八人

寄留 男二百六十六人  
女二百二十四人

但し旧主人本籍

男六十七人  
女八十八人

寄留七

産業

斜外四ヶ村ハ漁業家二十戸高家二十戸工業家四戸  
他ハ悉ク農業ヲ以テ生計ヲ営ミツマハリ

昔時ハ居民皆漁業ニ従事シ由是ニ生計ヲ為スルニ  
近時不漁打漁ヲ被禁テ結果轉業ヲ為スルモノ頗  
ル多カリシニ昨三十八年今三十九年鯉鱒豊漁ノ為

メ稱恢復ノ緒、就キタスノ、如シ

高家ハ概子日常必須ノ貨物ヲ販賣スルハ小高家

工業家ハ構寸軸木ヲ制衣造靴出スルモノニシテ一年

生産額約三千五百俵此價格約壹万円ニシテ本部

如キ原料ノ豊富ナル地ニ在リテハ、后来是々有欲

事業ありトス

農業ハ、薄荷及麦類ヲ主産トシ、副産業トシテ

新元支那銀行

是年産量鶏、行季ふんをアんも且其數息は少なり  
 牧場ヲ經營スルをアんも未多事業ノ端ニシテ牧畜  
 ヲ見ルニ云エラス

最近五ヶ年同生産物ノ牧獲及價格左如シ

年 度 別	海 産	海 産	物 産	林 産	年 度 別
三十四年	一、一三六	一、二九八	一、四九二	二、〇〇九	三十四年
三十五年	〇、〇〇〇	〇、〇〇〇	一、五七八	二、〇〇〇	三十五年
三十六年	二、一九七	一、八一六	一、七九八	二、〇〇〇	三十六年
三十七年	二、〇〇〇	〇、〇〇〇	二、八五九	二、〇〇〇	三十七年
三十八年	二、〇〇〇	〇、〇〇〇	三、〇二九	二、〇〇〇	三十八年
三十九年	二、〇〇〇	〇、〇〇〇	三、〇二九	二、〇〇〇	三十九年
四十年	二、〇〇〇	〇、〇〇〇	三、〇二九	二、〇〇〇	四十年
四十一年	二、〇〇〇	〇、〇〇〇	三、〇二九	二、〇〇〇	四十一年
四十二年	二、〇〇〇	〇、〇〇〇	三、〇二九	二、〇〇〇	四十二年
四十二年	二、〇〇〇	〇、〇〇〇	三、〇二九	二、〇〇〇	四十二年

三十四年 三十五年 三十六年 三十七年 三十八年 三十九年 四十年 四十一年 四十二年

物 産 農			物		
二十八年	二十七年	二十六年	二十五年	二十四年	年 度 別
一七、二五五	九三九	四六八	五三二	一五七	産 額
〇〇〇	八〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	額
一〇、九四二	四九八三	四七二一	八五七	一、一三五	價 格
〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	格
					七、〇五四
					三、五九四
					二、四六四
					七、〇〇〇
					七、〇〇〇
					〇〇〇
					一、四三三
					一、四三三
					九、〇〇二
					〇〇〇
					〇〇〇

新元三ノ月行

交通

細走斜里間及斜里標津間及定縣道ハ細走ニ起リ  
 甘澤琴丸倉環止別諸村ヲ經テ標津村ニ達ス甘澤  
 琴丸倉環村境ヲ斜里村ニ至ル間ハ概子治山ヲ  
 砂礫ニシテ人馬車輛ノ通行容易ナラズ斜里村越  
 川越ヲ以東ハ斜里山道ト稱シ坂路ノ勾配甚シク  
 津島ヲ通セズ秋冬ハ烈風積雪ノ為メ通行ヲ  
 杜絶スル一往々有之硫黃山道ハ細走ヲ來リ  
 止別村ヲ經テ銅路岡硫黃山ニ達ス其間急斜  
 ノ坂路多キニ辛シク人馬車輛ノ通行ニ便ス  
 籠莫別道道路ハ斜里村ヲ籠莫別原野  
 西四線ニ至テ六部道路ハ依定縣道根室街道  
 六部線交又又点ヲ籠莫別原野西四線

6 39年 柳北

籠莫別原野西四線

ニ至リ 飽寒別原所チツブトマリ間道路ハ仮定

縣道根室街之道ニ野線交叉点ヲ朱田村字チツ

トマリニ至リ 斜里原野斜里原野排水道路ハ斜里

橋ヲ十野線ニ云ハル共ニ人馬車ノ通行自在

ニシテ各原野住民日常必須ノ貨物農産

物ノ輸出入悉ク此道路ニ依ル然レモ住民原

野ノ廣闊ナルニ比シ既設道路至テ僅少ナルヲ以テ

極上ニ望係少チオラス故ニ各原野道路ノ速成ヲ

希望シコトス 其最モ急ナルハ斜里野川間道

路ナリトス 此路線ノ同敷金ヲ見ルニ至ラハ斜里上斜

里止別諸原野ノ間各宜ニ發達セバキマアラン

前述ノ如ク他國郡ニ通ル陸路ハ甚ク不完全ナルヲ

以テ本郡輸出入貨物概シ海運ニ依リ補助定期船

八東五週共四月より一月間八月二回ノ寄港アリ其  
他補助定期船外臨時船舶ノ寄港アルモ港灣直  
夕悪シク少シク風浪ノ起ル時ハ何程ク船ス事能ハス  
加之十二月ヨリ羽立年三月ノ至ル間ハ流水ニ因リ  
船舶寄港スル事能ハサルヲ以テ十月終航  
ニ於テ越年準備トシテ多大ノ貨物ヲ輸ルヤルマカ  
ラサル等其不便甚シトス

斜里村市街地ニ三等郵便局ノ設置アリテ郵便

電信ヲ取扱フモ遠音別村ハ事便集配区止別村

(字ノ清野川ニ郵便局アリ)ハ各期月三回ノ集配止別村字ノ清水

ハ網走局ノ集配区止別村字ノ野川及上斜里原

野ハ弟子屈局ノ集配区止別村字ノ清水

ニ言フニ急ヒカハル故ニ止別村字ノ清水ニ

附録ニ依リテ

新元文曆管内月長巻上

郵候旨ヲ設置スル時ハ居民ニ至大ノ便利  
ヲ興フルノミナラス施テ拓殖ノ進歩ニ功具ルル少  
ナカリカレベシ

拜里川サラバ川ハ舟楫ノ便アルモ多年後深セ  
カルヲ以テ流亦壅積シ目下河口ヲ僅ク一里  
許リノ上流ニ剛心ニ過キサルモ河川ヲ凌深シ流  
亦ヲ掃サ傷スル時ハ五里以上ニ遡ルヲ得大ニ運  
輸ノ便ヲ封印助スルノミナラス治山師ノ湿地ヲ乾  
燥セシムルノ間接ノ利益又少ナカラス



官公署

斜里外四ヶ村戸長役場

明治十一年十一月二十五日設置せり

官署轄区域 斜里村 倉岩堀村 止別村 遠音別

村 牛内村、五ヶ村トス

調査結果 倉岩堀斜里外四ヶ

年月日不詳 斜里村番外地戸長役場内ニ於テ

戸長青 祐三郎等 明治十一年十月長役場下

分設明治三十七年二月二十六日 斜里村番外地

現今ノ二區 左ノニ 移移トス

官署轄区域 斜里村 倉岩堀村 止別村 遠音別

村 牛内村、五ヶ村トス

林協保 調査派出所 斜里保 護區 左ノニ

明治十一年十一月二十五日設置せり

新元式府管内月長行

明治三十年四月一日森柵着 留守駐在所ヲ四五カノ明

治三十年五月一日現今ノ名称ニ改正

竹官轄区域 斜里村 峯岩 村止別村 朱田村

遠音別村、五ノ村トス

斜里郵便局

明治八年七月四日創設

集配区域 斜里村 朱田村 遠音別村 峯岩

村止別村

尾小流北野川  
上斜里原野ノ際

字守十ノ

社寺

科屋山禪龍寺、曹洞宗、明孝流、報恩寺末

、レ、明治三十二年七月許可、得、護教場、

創設、担當教師、鈴木雄禪、能、力、

布教、房、苦心經營、結果維持全連

物土地等信徒、寄附、得寺、難、公、稱、

出、形、明治三十八年四月二十六日之、許可、

得、寺、寺、寺、寺、寺、寺、寺、寺、寺、寺、寺、

寺、寺、寺、寺、寺、寺、寺、寺、寺、寺、

一、維持金、八百円

一、建物、四十坪

一、境内、七百二十六坪

一、檀家人、員、百二十四名

昭和十一年四月二十六日

一任職 鈴木雄禪  
一檀家 徳茂

泉田庄藏

平田嘉志

水野仁藏

加藤文治

續文庫管內戶長巻

教音

斜里町立常小學校ハ明治二十五年三月二十五日小學生簡  
易科設置ノ詔可ク得民屋ヲ借受ケ校舎ニ任用シ  
授業ヲ始メ之田村就學児童數十三名准訓導ヲ飯  
田貞吉教授ヲ自ル今年六月飯田貞吉辭職訓  
導ヲ中野田種三之ニ任命シ今年七月十五日

勅語 騰本下付セラル今年八月簡易科ヲ町立常科ニ  
改ム明治二十六年二月廿四日種三辭職今年三月是  
存中執之之ニ任命シ今年六月之任命ヲ執之辭職  
准訓導ヲ小原繁條之ニ任命シ今年八月函館区西浜町  
手氏皆月常小校ハ人全登白四ノ校長菅新ヲ兼務トシ  
テ寄附金月道廳ヨリ全八拾圓校舎建築ニ充テ其  
助トシテ之六付セラル今年八月之法政ニ依リ新校舎

明治二十六年八月

二坪校或拾二坪或合五夕今年九月新築校舎二  
移転し且こま校舎の面目一新なり現今校舎即  
之レナリ二十七年四月小原篠條辞職今年五月廿三日

御聖影下賜せらる此月奉迎式ト合時ニ

移転式舉行ス今年七月伊藤之吉准訓道守ニ任セ

らん廿八年二月伊藤之吉辞職今月吉川要授兼雇

ヲ被任今年七月准訓道守ニ任セらん二十九年四月有志

者、宮内附金ヲ以テ凡琴志屋ヲ購ハセリ三十年八

月校舎四坪今年二月十坪増築ホ至今年十月吉川

要退職和田芳平訓道守ニ任セらん今年十月休職今

月伊藤之吉臨時教授ヲ囑託セらん三十三年七月

雇教員ヲ奉セらん三十三年二月十日有志者、宮内附  
以テ 御聖影奉置所ヲ校舎内ニ築造

今月十日 祀元竹郎ノ祝賀ト同時ニ遷座式ヲ舉  
 行セリ 三十三年 伊藤友吉 退職 川村直之 訓導  
 任セラル 三十五年 十月十七日 就學ク出 席 安合 九  
 以上ニ達シタルヲ以テ 學事 獎勵 規程ニ依リ 各 譽 旗  
 授與セラル 三十六年 十月五日 補羽白科 認可セラル  
 今月 廿日 川村 訓導 休職 今月 鈴木三郎 校長 兼  
 訓導 任セラル 三十八年 六月 鈴木三郎 増毛 郡 初  
 山 別 尋 常 小 學 校 転 勤 今 年 六 月 萩 村 恩  
 順 校 長 兼 訓 導 任 セ ラ ル  
 創立より 現今ニ至ル 卒業 証書 授與式ヲ 舉 行  
 シタル 幸 拾 貳 回 卒 業 児 童 男 四 十 六 人 女 四 十 八 人  
 三十八年 學 年 末 就 學 児 童 左 ノ 如 シ  
 男 十 六 人 女 二 十 六 人

國三ノ... 長久...

○能寒別簡易教育所ハ明治三十三年三月設立、

認可ヲ得全年ハ朔ヲ授業開始校舎ハ斜里

村手民鈴木長六<sup>八</sup>家屋ヲ寄附シタルヲ以テ

此坪敷四十五坪柏樹惠海代用教員ヲ命セリ

一<sup>教</sup>授ヲ担任ス示来寺本曉惠淺賀秀司

郎ヲ経テ現僱訓導高橋雄治ニ至リ

新主ヲ現今ニ至リ迄卒業証書授與式ヲ挙

行シタル事七回卒業児童男九人女三人

三十八年學年未就學児童里枚存<sup>レ</sup>也

男十六人 女十八人

小清水簡易教育所ハ明治三十七年七月、創立

シテ山田牧場主山田慎<sup>一</sup>係村民ト相謀リ校

舎ニ充用スル目的ヲ以テ新築シタル家屋二十



一坪の校舎に任用し河口善助を代用教員に任用  
し教授の相當をシメタリ三十九年六月辭職シタルヲ  
以テ加藤宗三郎ヲ代用教員に任用シ之レニ替  
ラシメタリ

明治三十八年學年未現在就學見立屋在如シ

男十二人

女十三人

新庄尋常小學校附屬實業補助羽白學校  
明治三十八年九月、創立ニ係リ、實業ニ行事シ又ハ  
行事セシトスルヲ竹間易ノ方法ニ依リ其職業ニ  
必須ノ知識技能ヲ授ケ保テ普通教育ノ足  
ラカルヲ補助自白セルムニシテ創立日尚淺ク其効  
果顯著ナラスト云凡實業將チ効上欠クベカラン  
ル機關ナルヲ信ス加之教授ハ尋常小學校長

ニ囑託スルヲ以テ義務教育有見童ニ不知不識ノ間  
ニ於テ實業思想ヲ養成セシムル等其裨益少  
ナカラス

三十二年學年未現在就學生徒數左ノ如シ

男十五人 女八人

富部内ハ斜里全郡ニシテ東西三十六里南北十里區域  
ノ廣濶ナルト此ノ如ク新聞ノ地ナルヲ以テ部落落ヲ  
形成シタルハ斜里市街地ノミニシテ他ハ民家各所  
ニ點在シ道路ハ既ニ開設全クタルニ是ヲ以テ住  
民荆棘ヲ刈ノ間キ辛シク一通行スルモノナルヲ以テ  
幼童通學ノ困難甚クシキニ拍子スニ三十二年  
學年未於テ就學歩合百中八七ヲ見ルニ至ルハ  
意思想外ノ好結果ト云ハカレバカラス

衛生

本村ハ明治二十六年中痘瘡患者男一名明治三十二年中  
 實扶的利亞患者男三名明治三十五年中男一名  
 女一名實扶的利亞患者四堆ハ之ハ何レモ特設ニシテ  
 流行ヲ見スレタ止シタリ

明治二十二年一月一日始メ本村医ヲ四道ノ示存現今ニ至ル  
 村醫面及地方其神助顔左表ノ如シ

期 間	村 名
自明治二十二年 至ノ 三十二年	
自ノ 三十五年	
自ノ 三十七年	
自ノ 三十九年	

村 医 氏 名
山内英司
佐多太郎
佐藤豊明

期 間	村 名
自明治三十二年 至ノ 三十五年	
自ノ 三十七年	
自ノ 三十九年	

村 医 氏 名
中山越助
外山昌藏

明治三十二年

新元支那管内月長行

年度	名称	地方費補助額	年度	名称	地方費補助額
明治二十六年		一六五	明治三十三年		三九
二十七年		一六九	三十四年		六七
二十八年		一六九	三十五年		七〇
二十九年		一二五	三十六年		九三
三十年		六九	三十七年		七三
三十一年		一七二	三十八年		一〇〇
三十二年		四六	三十九年		一〇〇

備考明治二十六年年度以前ハ詳ナラス

斜里村衛生組合ハ明治三十二年三月十八日ノ創設ニシテ  
 其經費年々村費ノ補助ヲ保テ維持ス漸次移民  
 ノ増加ニ伴ヒ得来ノ組合ニテハ充分ノ活動ヲ為ス  
 能ハサルヲ以テ其区域ヲ擴張シテ斜里外四ヶ村トシ

規則ヲ改正シ役員ニ組長副組長各一名部長若干名  
伍長若干名ヲ置キ村組合ノ事務ヲ執行セリ

墓地

斜里村番外一ニ於テ志段四畝十八歩明治十九年十月  
二十日斜里村範寛九別原野第一線二十五番地ニ於テ四段  
式畝十五歩明治三十九年三月一ノ設置認可  
止別村止別原野第一線第十一号七十七番地ニ於テ卷  
百歩明治三十九年四月一日付リ次ノ墓地設置出願中

火葬場

斜里村番外三ニ於テ卷畝十歩廣之音別村字イタシベ  
ウニ於テ六畝二十歩明治十九年十月廿日設置認可  
止別村字止別原野第一線第十一号七十七番地ニ於テ五  
畝歩明治三十九年四月一日付リ以テ出願中

昭和十九年四月一日付リ以テ出願中

續文獻通考卷之四十五

財政

歳入歳出

年次	歳入	歳出	備考
明治三十五年度	二一、四四	二一、〇四四	決算
二十六年分	六一、七四〇三	一八、八	〃
二十七年分	二六、〇五八一	二、一九	〃
二十八年分	二〇、九六一五	二〇、一四六五	〃
二十九年分	二七、〇二一九	二、三〇一七三	〃
三十年分	五三、二一一四	五、二一九一	〃
三十一年分	五、六〇一三六	五、四七五〇六	〃
三十二年分	四六、一四五六	四、六一八	〃
三十三年分	七、七五八五一	七、九八五一	〃
三十四年分	八、二五八五	七、八七六七九	〃

明治三十七年...

15

明治三十五年	二二九二	一〇七	一一四七	八一九	決算
三十六年	一五四九	四四一	一五一三	二五二	
三十七年	一三〇三	二二二	一三二七	三四九	
三十八年	一六一〇	四七四	一五九七	七三九	
三十九年	二四八二	七九〇	二四八二	七九〇	豫算

從來并對住民、納稅ヲ等閑ニ付ルニ惡敷相白アリ以テ  
 明治三十七年八月之ニテ矯正ヲ謀ル者、斜屋外四ヶ村納稅  
 總合ヲ設ケ、戸長組長任ニ當リ、所村組合組長ヲ以テ委  
 負ニ任シ、常ニ納稅上ニ注意セリ、或ハ苦訴ヲ受シ、納  
 稅義務ノ重クスヘキヲ知ラシメ、令狀配付毎ニ注意要  
 項ヲ附記スル等、銳意納稅ノ改善ヲ計リタル結果、漸  
 次其成績佳良ニ赴キ、本年第一期諸稅及公課  
 金、如キモ現任者ニシテ滞納処分カク受ケタルモノナキト



至り

町村事業

基本財産造成組合村資本を登達<sup>補助スル</sup>ヲ目的トシ漁獲  
 物農産物價格ノ緩急ヲ若クハ收獲物ノ緩急有志  
 者ノ願<sup>出</sup>金冠婚<sup>日</sup>弔<sup>祭</sup>奉<sup>祭</sup>ノ紀念事業<sup>寄贈</sup>金  
 品等ヲ贈集<sup>シ</sup>テ村基本財産ニ寄附スルモノトシ明治三  
 十七年七月二十日ノ創設ニシテ村民全般ヲ以テ組合員  
 トシ現今ノ組合長三氣屋浦次郎年廿八歳ハ十四名ニ  
 シテ本事業ノ發達ニ努メ居リ勤儉貯蓄<sup>セ</sup>者  
 組合員者多遊惰<sup>ノ</sup>弊風ヲ去リ勤儉貯蓄ノ美  
 風ヲ養成スルヲ目的トシ管理者ハ戸長三氣屋  
 浦次郎之ニ當リ明治三十八年十二月十五日調<sup>ニ</sup>依  
 ル時ハ貯金ノ員百十九人貯金額千。五拾八

明治三十八年十二月十五日調ニ依ル時ハ貯金ノ員百十九人貯金額千。五拾八

五拾四歳武原ナリトス

在御軍之家種、整護組合、任民、一致共同、依り戦  
時、應召、軍人、家族、シテ生計困難ナルモノニ、丹心救  
護又ハ生業ノ援助ヲナシ、國民後援ノ家ヲ幾々、各召  
軍人ヲシテ後顧ノ憂ヒナカラシムルニテ目的トシ、明治  
二十七年八月十日、創立ニ係リ、時、戸長組合長ノ  
任ニ當リ、救護事務ニ、執掌シ、明治二十九年七月ニ  
上日平和志復シタル以テ解散シタリ、創立以來、事  
業、概シテ、累々左ノ如シ

應召軍人出立、際シテハ、此行、或ハ、餓死シ、或ハ、又ハ、戦地、慰  
問、及、恤兵、品等ヲ、寄贈シ、家族、生計、困難者ヲ  
救護シ、其、救、戸、十四人、戦死者、ヲ、祭儀、執行シ、  
其、救、一人、ナリ

軍人遺族の瘡兵救護組合、軍人遺族の瘡  
 兵及瘡兵家族ニ對シ、住民共同一致シテ救護若ハ  
 生業ノ扶助ヲおスル目的トシ、明治三十九年一月一日創  
 設ニ係リ、組長ハ戸長兼重浦吹郎之ニ當リ、部長  
 ハ山村健合、組長ヲ以テ之ニ充ツ、創設以來未タ救護  
 ノ必要ニ接セサルハ、山村ノおノ日、最モ慶賀スベキナリ  
 トス

基金財産造成ハ從來より歳入出決算より生スル剩  
 餘金、且左序財産を生スル利子、不用品賣却代  
 用途ノ指定セラルル旨、附左等ヲ裁奪シ、來り先モ其  
 規程ナカリシ以テ、明治三十九年五月八日基金財産造成  
 成規ニ官理規程ヲ設定シ、從來ノ世執行ヲ確定シ、  
 益基金財産ノ造成ニ勉メ、現今基金財産トシテ

明治三十九年五月八日

事務積立金額左ノ如シ

公債 千貳百七拾五圓

貸入金 百五拾陸圓貳拾九錢六厘

預金 百五拾九圓四拾陸錢七厘

植樹目的ノ以テ 龍寒別屬野ノ於テ 六拾陸萬九千坪

共同放牧場トシテ 上斜里ニ草野ニ於テ 百四拾陸萬

八千七百四拾陸坪 北海道國有未開地貸付出願

中貸付許可事業完成ノ上ニ 其收入ニ至ラズル村

費ニ神壇スル計画ナリ

村是調査会ハ斜里外四ヶ村ノ地勢人情風俗習慣

生産業經濟其他諸般ノ已往及現況ヲ調査シ將來

ニ對スル施政方針ヲ確定シ實力ヲ養成シ本村ノ

發達ヲ期スル為メ調査ヲ為スルニシテ其組織左

龍寒別屬管内局長行

如之

調査委員長

兼重浦次郎

調査主任

早田 尹 義

調査委員

藤海純一

水野仁藏

牧安太郎

栢田源五郎

平澤真吉

外山昌藏

小山田喜久治

新保戸一郎

平田嘉吉

加藤文治

昭和三年三月廿九日 東京

銀行諸念社及工場其他公共團體村農會

山形製軸工場ハ赤田村ニシテ明治三十五年八月ノ創立ニシテ

水製削出及刻ニ岩釜村或台有シ水力ヲ以テ之ヲ

運転シ男女職工或拾人等ヲ使役シ其一年ノ製

軸数量ハ千五百俵内外ナリ

逢坂製軸工場ハ斜里村字飽寒別原野ニシテ明治三

十五年五月ノ創立ニシテ岩釜村ハ亦製削出ニ志望シ

刻ニ武台水カクテ運転シ男女職工約三十名ヲ使役シ

其一年ノ製量産額約千五百俵内外ナリ

津田製軸工場ハ斜里村字赤上ニシテ明治三十八年七月ノ創

立ニシテ岩釜村ハ亦製削出ニ及刻ニ志望シ各動機ハ水車

ニシテ男女職工十餘名ヲ使役シ一年ノ製量産額ハ六百

俵内外ナリ 中ノ條目録大ニシテ下ノ如キナリ

斜軍外四ヶ村農会ハ明治三十二年九月有志相謀リ設立計畫  
 ナリ今月創立委員選舉等ヲ施行セリ川畑又三郎泉田庄藏  
 中澤真吉半田嘉吉藤澤純一、五氏當選今月設立  
 認可申請今年十月四日付リ以テ認可セラル此ニ於テ今月  
 八日總會之開キ會則リ議定シ役員選舉等ヲ行ヒタルニ  
 會長ニ栗原佐吉副會長ニ鈴木春夫評議員ニ幸次  
 真吉岩淵寅藏石川芳次難波村四郎、諸氏當選  
 茲ニ農会成之ヲ告ケ當時、會員四十名今年十月獨走外  
 三郡農会ニ強加盟セリ今年拾六年五月栗原會長  
 任滿テ石川芳次之ニ送ル今年六月石川會長辭任  
 新保戸郎之代ニ此期間ハ草創時代ニシテ諸事整頓  
 マカント以テ施設計畫見ルヘキモノヲ殆ト有名無實ノ状  
 態ナリトシガ今年十月農会令ノ改正アリ隨テ會

明治三十二年九月

別ヲ改正セサルベリ  
三月九年二月廿日總會ヲ開キ

改正會則ヲ議定シ及役員ヲ選舉シタルニ會長兼重

浦次郎副會長兼澤真吉評議員ニ新保正郎

遠坂又吉鈴木忠孝大更科銓太郎笹田良朝水野仁

藏平田嘉吉代表者兼重浦次郎副代表者兼澤

真吉兼重選就任加藤宗ヲ技術員松田厚太郎

牧安ヲ早田千太郎書記ニ任ズ今日農會ニ議

規則及三十八年度農會經費收支更正豫養三十九

年度收支豫養經費補助及分賦收六件農會

員基序取産地選定出願件等ヲ議スニ科

里分署長滝本瑞龍科里郵便局長心得塚本

定明中科里小学校長萩村男順齋寒

別簡易教員所教員高橋雄治科里水産組合



長小田嘉久信全副組會長竹藤純一村總代八水野仁藏  
 塚本命助笹田良朝更科鉄吉郎稻垣吉煥地  
 長平田嘉吉加藤文治新保戸郎栗原佐吉竹中安  
 之助鈴木養方達坂又吉菊地丈助官内教太郎  
 泉田庄藏村医外山昌藏鐘詔製製造所主藤吉通  
 之進等諸氏ヲ名譽會會員ニ推選セリ云々主為農會  
 之始メテ活動ノ緒ヲ開キ今年九月會會長兼重浦  
 次郎ハ北海道ニ於テ農業試驗場及共進會ヲ  
 觀ノ為ノ上川及札幌地方ニ出張今年十月七日斜  
 里尋常小學校ニ於テ臨時總會ヲ開キ兼重會  
 長ハ地方農業試驗場及物産共進會ヲ參觀  
 其況ヲ報告シ夫レヲ三十八年度ニ於ケル會務ヲ  
 其況及決算夫報告三十九年度經費收支更正追加

三十九年度經費收支更正追加

豫美及徳久、決議ニ関スル件ヲ議スル科長  
 今ノ署長ハ相鬼二郎科長 郵便局長川端三  
 四郎 森林看守和賀市古村 村医佐藤豊明、  
 諸氏ヲ召集會員ニ推選セリ三十九年度ニ於テハ  
 青田農會ノ事業ハ、由農事ノ講和話會日ノ開  
 設種苗、交換ノ力與種苗、現代配付木炭  
 製衣造法改良傳習ヲ推普製衣造傳習會家云田  
 賦（將大勵養食番將大勵撰種及麦奴豫防ノ  
 實施種牡馬借入等ヲ着々活動シツクアリ現  
 今ノ會員八十八名ニ達セリ

21

